

## インターバンクの声（2015年10月20日）

東京市場の昼前に発表された中国7-9月期GDPがついに7%の大台を割り込んだ。もし市場予想をも下回るような結果となっていれば、多分昨夜もロンドン、ニューヨーク市場で中国経済の減速懸念による安全資産とされる円買いがいつものように実施されていたに違いない。米国の指標は毎回注目されるわけではない住宅関連指標が弱く、金融大手の決算が大幅減益となったりしたが、バイオ関連株の上昇が株価を下支えしたようで株価も週末の終値から大きな変化はなかった。為替市場ではドルが対ユーロ、豪ドルで堅調地合いにはなったものの、ニューヨーク市場の中盤からは動きがほとんどなくなってしまった。気になっていた米財務省からの半期に一度の為替報告書が公表された。中国に対して一段の元高を容認するよう求めているが、今回も「為替操作国」の認定はなかった。なかなか相場が動くような兆しが無いが、みんな欧州中銀（ECB）理事会、米連邦公開市場委員会（FOMC）、日銀金融政策決定会合を待ち構える態勢に入ってしまったのだろう。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。